

全国の小中高生がSDGsの
次のゴール（ポストSDGs）を作る
プロセスへ参画するための第一歩

2045年理想の脱炭素社会 ポストSDGs 全国作文コンテスト 募集要項

ねん もくひょうねんど 30 ねん 2045 ねん 2045 ねん 2045 ねん 2045
2030年を目標年度とするSDGsと、国際連合100

しゅうねん ねん もくひょうねんど そうてい つぎ
周年にあたる2045年を目標年度と想定する次の

ゴール（ポストSDGs）は、理想の未来を描き、

実現するための取り組みです。皆さんがSDGsを

学ぶことで描けるようになった理想の未来を、

コロナ禍で苦難に陥っている人々の希望と

なるような作文コンテストを実施します。

この作文コンテストでは、いまよりも一世代先の

世界、小中高生が大人となり、自分たちの子ども

の世代が小中高生となっている時代について、ど

のような理想を描けるのかといった未来構想力が
と
問われます。

応募条件

金沢工業大学SDGs推進センターのウェブサイト
公開しているゲーミフィケーション教材を用いて
SDGsについて学んだことがある小中高生

入賞

大賞 1名・優秀賞 1名・奨励賞 1名

を選定します。表彰状と民間企業からの支援金より副賞
（学業奨励費）を贈呈。

- 大賞：図書カード10万円分
- 優秀賞：図書カード5万円分
- 奨励賞：図書カード3万円分

応募締め切り

2021年9月30日（木）消印有効

お問合せ

金沢工業大学 SDGs推進センター
<https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/contact/>

主催：金沢工業大学 共催：非営利型一般社団法人Beyond SDGs Japan
協力：SDGs Global Youth Innovators、株式会社LODU
後援：ジャパンSDGsサミット運営委員会

原稿

- 日本語で400字詰め（20字×20行）原稿用紙4枚以内。パソコン・ワープロの場合は、1枚当たり20字×20行に設定してください。
- 原則パソコン・ワープロを用いて入力し、印刷して提出してください。
- 氏名(ふりがな)、住所、電話番号、メールアドレス、学校名、学年、年齢及び都道府県名を明記した原稿用紙を1枚添付すること。

なお、住所、電話番号、メールアドレスについては、受賞者への連絡・賞状や副賞の送付のみに活用し、その他の個人情報についても本コンテストの運営に関するもののみに活用いたします。

テーマ

自分の暮らす地域における2045年の脱炭素社会

推奨図書

SDGsを達成した先に、どのような未来が待っているのか？ 理想の未来を実現するために、まずは何から行動すればよいのか？ SDGsに取り組むことで、どのように自分を成長させることができるのか？ そうした疑問に答える書籍です。本書籍に記載された内容を理解した上で、作文の内容を考えることを推奨します。

10歳からの図解でわかるSDGs「17の目標」と「自分にできること」がわかる本

著書：金沢工業大学SDGs推進センター長 平本督太郎

発行者：株式会社メイツユニバーサルコンテンツ（メイツ出版）

応募資格

学校教育法に定める小学校、中学校、高等学校、又はそれに準ずる学校に在籍する日本国内在住の小学生・中学生・高校生

審査

Beyond SDGs Japanの理事、金沢工業大学SDGs推進センター及び学生団体SDGs Global Youth Innovators、株式会社LODU（本学大学院生）による審査を予定

入選発表

受賞者には、主催団体から受賞者本人へ原稿に記載されたメールアドレスに通知メールを送付することで、通知いたします。sdgscenter@kanazawa-it.ac.jpからメールを受け取れるようにドメイン設定を行なってください。一定期間連絡が取れない場合、当選が無効になる場合があります。

作品 取り扱いに ついて

- (1) 応募作品は返却致しません。
- (2) 入選作品の著作権は、金沢工業大学に帰属します。
- (3) 作品は未発表の創作に限ります。
- (4) 入賞作品は、学校名・学生名とともに金沢工業大学のホームページ等に掲載、またジャパンSDGsサミットユースサミットにて紹介することを予定しています。

応募方法

原稿は下記の提出先まで送付ください（郵送のみ）

〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1

金沢工業大学 SDGs推進センター 作文コンテスト係

今回の全国作文コンテストは「2045年の循環型社会」をテーマに2022年1月に実施を予定しています。

金沢工業大学では、今後も日本一のSDGs教育推進大学として、教育・地域経営・ビジネスの3つを重点領域としハブ機能を高めていくことで、日本中・世界中にSDGs教育を広め、SDGsの達成に貢献していきます。